

会 議 録

会議名	2025 年度第 3 回東浦町地域福祉推進委員会・東浦町地域包括ケア推進会議地域生活支援部会合同会議	
開催日時	2026 年 2 月 2 日（月）午後 1 時 30 分から午後 3 時まで	
開催場所	東浦町勤労福祉会館 2 階 会議室 1	
出席者	アドバイザー	原田正樹氏
	委員	原田正治氏、金神正之氏、日高啓治氏、高場智明氏、吉田禎宏氏、今村雄一氏、山崎紀恵子氏、金森大席氏、新美あかり氏、鈴木洋子氏、宮池始氏、田島由美子氏、瀧本星子氏、山田祐太氏、外山綾子氏
	事務局	原田ふくし文化部長、船津ふくし課長、森ふくし課社会高齢係長、山本ふくし課地域共生社会推進係長、西川ふくし課地域共生社会推進係主査、笹保障がい福祉課長補佐兼障がい者支援係長、植田学び支援課生涯学習係長、丸山健康課成人保健係長、村上健康課長補佐兼こども家庭係長、藤田教育課学校教育係長、黒田住民自治課コミュニティ支援係長、高見東浦町社会福祉協議会事務局長、山木東浦町社会福祉協議会統括係長、和田東浦町社会福祉協議会地域福祉係長、田中東浦町社会福祉協議会介護事業係長、小林東浦町社会福祉協議会包括係長
議題	<p>(1) 第 2 次地域福祉計画に係る重点プロジェクトの進捗状況について</p> <p>(2) 第 3 次地域福祉計画に係る分野別計画策定委員等アンケート結果について</p> <p>(3) 第 3 次地域福祉計画に係る住民意識アンケートについて</p>	
傍聴者の数	1 名	
審議内容	<p>◆事務局 委員 18 名中 15 名の出席により、委員会開催の定足数に達していることを確認。 傍聴者の確認（傍聴者 1 名）。会議録作成のための録音の了承。 次第に従い、会議を進行。</p> <p>1 あいさつ</p> <p>◆事務局（ふくし文化部長）</p>	

現在、本町では、地域共生社会の実現に向け、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、第2次東浦町地域福祉計画を推進している。

本日は、第2次地域福祉計画に係る重点プロジェクトの進捗状況と、第3次地域福祉計画に係る分野別策定委員等アンケート結果及び住民意識アンケートを議題としており、事務局からの説明の後、委員の皆様から貴重なご意見を賜りたい。

◆事務局

新たに委嘱した委員1名を紹介及びアドバイザーの出席の報告。配布資料の確認の後、以降の進行を委員長に引き継ぐ。

3 議題

◆委員長

議題(1)「第2次地域福祉計画に係る重点プロジェクトの進捗状況について」事務局から説明をするよう促す。

◆事務局

2025年度の重点プロジェクトの取組みについて説明。

・重点プロジェクト①「ほっとけんな〜」では、地区ごとに色分けされたPR用缶バッジやPRソングを作成し、「にじいろフェスタ」において配布・披露した。

・重点プロジェクト②「みんなの相談室」では、「地域におけるACP」と「居住支援」をテーマとしたカフェミーティング2回開催した。

・重点プロジェクト③「困ったあるある」では、「困りごと」に関する事例集の作成を進め、3月以降の配布を予定。

・重点プロジェクト④「みんなでレストラン」では、緒川地区において2回の「食」に関する取組みを実施した。

・重点プロジェクト⑤「行ってみんな、私のまちのふくし再発見」では、石浜地区の福祉・介護事業所やおすすめスポットを巡るツアーを実施した。

・重点プロジェクト⑥「ひがしうら於大学」では、「あんきに学ぼう於大ゼミ」と題し、全4回受講型の講座を1/27より開始した。

・重点プロジェクト⑦「走れ！ちょいバス ウラ・うらら」では、町都市整備課が実施した国の補助金を活用した実証実験に関わり、住民のニーズを確認したほか、町総合ボランティアセンターで養成している運転ボランティアを参考とした、新たな仕組みづくりの検

討を行った。

・重点プロジェクト⑧「隣組スクラム大作戦」では、町総合防災訓練の関係で実施ができなかった緒川地区を除き、町内のほぼ全ての地区において住民懇談会を実施した。

・重点プロジェクト⑨「わんわんパトロールひがしうら」では、藤江地区の三丁公園で実施された動物愛護フェスに参加し、隊員同士の交流会を実施した。また、隊員数が100名となった。

続いて、重点プロジェクトのチームリーダーを務める3名の委員より、第2次東浦町地域福祉計画に係る重点プロジェクトの進捗状況について所感が述べられた。

◆委員

・重点プロジェクト①「ほっとけんな～」では、今後も住民啓発の継続とともに、啓発グッズ配布後の効果検証が必要である。

・重点プロジェクト②「みんなの相談室」では、講演会とコラボすることにより、参加者を確保できるようになった。今後は、本取組みがその後の実務にどう活かされたかの検証が必要である。

・重点プロジェクト③「困ったあるある」では、事例集の周知・配布方法の検討や配布後の効果検証が必要。今後は、事例集に掲載されていない「困りごと」の情報をどのように集約していくかが課題としてある。

◆委員

・重点プロジェクト④「みんなでレストラン」では、子どもへの取り組みが成功し、地域福祉や役割を体感する機会を提供した。子どもの熱意が大人にも伝わり、地域の協力が生まれたが、地区ごとの差が課題として残ったため、今後は、どの地区でも実施しやすい企画を目指したい。

・重点プロジェクト⑤「行ってみん、私のまちのふくし再発見」では、各地区で住民が企画・案内役を担当し、地元愛が発揮される好評なツアーである。訪問先の福祉施設も地域住民との交流に積極的で、顔の見える関係づくりに貢献している。最終年度は残りの緒川、生路地区で開催し、多世代が参加できる工夫も進める予定である。

・重点プロジェクト⑥「ひがしうら於大学」では、大人向けの小さな学校で、6回の講座を通じて住民同士の交流や仲間意識が生まれた。第2回目では前年の受講者が講師を務めたり、企画段階での参

加希望者も出現。住民同士の知り合いや活躍の場として機能している。

◆委員

・重点プロジェクト⑦「走れ！ちょいバス ウラ・うらら」では、実証実験を行い、利用者から移動手段の必要性が強調された。運転ボランティア講座を企画し、地域の現状やニーズを把握しつつ、チーム員による協議だけでなく、行政や社会福祉協議会と連携して課題を解決し、地域住民の移動支援や生活支援につなげることを目指している。現在の課題はドライバーの確保で、地区ごとの状況に応じた対応が必要である。

・重点プロジェクト⑧「隣組スクラム大作戦」では、防災をきっかけにご近所のつながりを強化することを目指している。防災懇談会を各地区で実施し、参加者に地域の課題を自分事として捉えてもらい、日頃からの付き合いの重要性を再認識してもらった。今後は地域が主体的に懇談会を開催できるよう支援を続ける予定である。

・重点プロジェクト⑨「わんわんパトロールひがしうら」では、犬の散歩を活用した地域見守り活動で、隊員登録目標の100名を達成。今後は活動の見える化や新規登録者向けグッズの検討を進める予定をしている。

◆委員長

事務局の説明に対し、各委員に意見等を促す。

◆委員

居住支援をテーマにした講演会とのコラボ企画「みんなの相談室」に参加し、有意義な交流ができた。今後、この取り組みを継続的に広げる方法を検討する必要がある。

◆委員

今年度から「ささえあいチーム」に参加し、過去の取り組みの成果を学びながら進めてきた。その中で「走れ！ちょいバス ウラうらら」の進展が課題と感じており、行政や社会福祉協議会との連携を通じて地域の希望に沿った形にできないかと考えている。

◆委員

「ささえあいチーム」に参加し、「わんわんパトロールひがしう

ら」の隊員募集チラシについて、散歩エリアの選択肢を町内全域対象に変更する提案をした。また、チラシを広く配布するために、役場以外の町内施設にも置くべきと感じた。

◆委員長

議題（２）「第３次地域福祉計画に係る分野別計画策定委員等アンケート結果について」事務局から説明をするよう促す。

◆事務局

・昨年 12 月 15 日から本年 1 月 5 日の間に実施したアンケート結果について報告。回収率は、前回 71%から低下し、年末年始が原因と推察。改善が必要。「地域の活動状況」では自治会活動や福祉支援が多く、「理想のまち」として相談支援や地域づくりが重要とされる意見が多い。

・アンケートで「他分野と取組めること」として「災害・防災・防犯対策」が最も多く、続いて「子育て支援」「障がい者支援」「虐待防止・権利擁護」が挙げられた。課題解決には、地域福祉を暮らし全体を支える包括的支援として捉え、多分野の連携と住民参加が重要である。

・前回の委員会提案を基に事務局職員を対象とした「地域福祉計画の推進に係る連携」をテーマとしたアンケート案を作成した。内容については、委員長や各プロジェクトリーダーと相談・調整済みで、本日は承を得られれば今月中に実施したい。アンケートの結果は、後日委員の皆様へ報告するとともに、今後の計画策定や担当者会議、職員研修資料として活用予定である。

◆委員長

事務局の説明に対し、各委員に意見等を促す。

◆委員

事務局アンケートについては、回答し辛い設問もあるかもしれないが、できる限り協力して欲しい。

◆委員長

アンケート結果が楽しみだが、住民意識アンケートの結果と合わせて次期計画の策定に是非役立てていただきたい。

引き続き、議題（３）「第３次地域福祉計画に係る住民意識アンケートについて」事務局から説明をするよう促す。

◆事務局

- ・今回提示する内容は、前回委員会で提示したものに、委員の皆様から出された意見を反映し、修正したものである。
- ・特に意見等が無ければ、本内容で次年度の４月に予定している住民意識アンケートを実施したい。

◆委員長

事務局の説明に対し、各委員に意見等を促す。

◆委員

「２．地域とのつながりについて」の設問において、「交流はしていない」と回答した場合、それ以上を問う内容が含まれておらず、交流の必要性や情報収集の方法などを深掘りする設問が必要ではないだろうか。

◆事務局

地域福祉計画を進めるにあたり、地域交流は重要であると考えている。アンケートを実施する際は、「交流はしていない」を選択した方には自由記載を促し、考えを深掘りできる設問形式にしたい。

◆委員

「交流はしていない」と回答した人の中に、「本当は交流したいけどしていない」という気持ちを持っている人がいた場合、匿名のアンケートだと、その後、その人にアプローチができるか疑問を感じる。

◆委員

アンケート結果を分析する際、数値が大きい項目だけでなく、数値が少ない項目をどのように評価するかという視点が重要であり、結果全体の評価方法が明確でない点が課題である。また、議題２の事務局アンケートにおいて、調査対象を町の関係課職員だけでなく社会福祉協議会の職員にも広げるべきではないか。

◆委員長

事務局アンケートを社会福祉協議会の職員に対して実施する件については、事務局の方に判断を預けます。

◆委員

問 11 の選択肢は、交流をしていることを前提とした内容に見受けられるため、前問で「交流をしていない」を選択した人でも違和感なく回答ができるような表現を検討してはどうか。

◆委員長

アンケート結果から課題を抽出し、次期計画にどのように活かしていくかが肝心であり、単に実施するだけで終わらないようにしていただきたい。

他に意見が出ないことから、本日の議事が全て終了した旨を告げ、事務局に引き継ぐ。

◆事務局

最後に、アドバイザーから本日の講評と令和8年度に向けたふくし政策の動向と自治体の検討課題についてご報告をいただく。

◆アドバイザー

- ・東浦町は非常に丁寧に事業を展開している。
- ・東浦町では、第3次計画策定に向けて基本施策や重点プロジェクトの見直しを行い、スクラップアンドビルドが必要とされる。
- ・2040年に向けて人口減少や単身世帯の増加が進むことが予測され、税収や人材の減少、福祉制度の課題が顕在化する。
- ・今後は特に、単身高齢者への支援や空き施設の利活用が重要となるだけでなく、社会福祉法の改正に伴い、社会福祉法人やNPO法人による社会福祉事業の拡充や連携強化が必要となる。
- ・災害時の福祉支援体制構築や事業継続計画（BCP）の共有体制、災害派遣福祉チーム（DWAT）の受援体制整備も進めるべきである。
- ・介護・福祉人材の確保は事業所単位から自治体主導へ移行し、小規模法人向けのICT活用や働き方の変革が進む。
- ・AIによるケアプラン作成が普及し、介護保険と障害分野の業務統合が進み、小規模法人を対象とした外国人介護人材の確保支援も拡充される。

・成年後見制度については、本人の意思決定支援を強化する方向で見直され、柔軟な後見人制度に変わる予定。

・地域福祉計画は介護保険事業計画との整合性を重視し、障害分野では高次機能障害への支援を組み込んだ障害福祉計画の策定が必要となる。

◆事務局

今年度の委員会は今回で終了したことを報告。

次年度については、次期計画の策定に向けて委員会を4回開催するため、後日改めて日程調整を行う旨を連絡。

閉会を宣言。